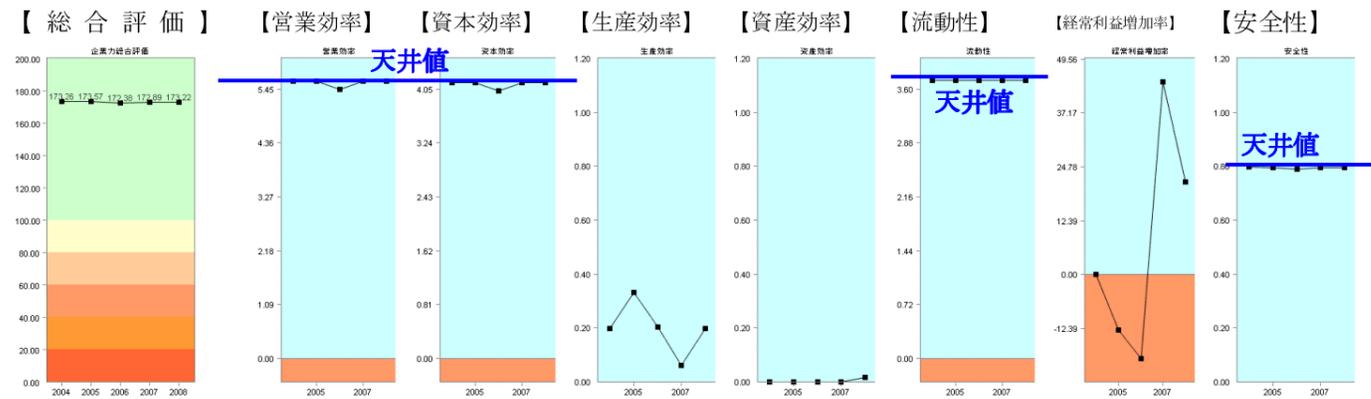


今回は、自転車部品、釣り具メーカー 株式会社シマノです。トヨタ、本田技研工業、パナソニック、ソニーなど、日本の基幹産業の企業が恐慌下で苦戦する中、総合評価を 0.33 ポイント改善させた日本有数の優良企業です。

それでは、**シマノ**の分析結果を見ていきましょう。



企業力総合評価は 5 期を通じて 173 ポイントあたりと高位置をマークしています。営業効率（儲かるかの指標）、資本効率（資本の利用度の指標）は天井値です。流動性（短期資金繰り状況の指標）安全性（長期資金繰りの状況の指標）も天井値です。経常利益増加率は 2007 年 12 月期、2008 年 12 月期ともにプラスです。

営業効率の下位指標を見てみましょう。

営業効率各指標 単位: 百万円、%

	2004年12月	2005年12月	2006年12月	2007年12月	2008年12月
売上高合計	169,209	167,875	170,303	211,767	235,142
売上総利益	60,941	60,152	58,637	73,029	83,517
売上高総利益率	36.02	35.83	34.43	34.49	35.52
営業利益	29,391	25,276	20,909	31,338	37,821
売上高営業利益率	17.37	15.06	12.28	14.8	16.08
経常利益	29,767	25,994	20,966	30,265	36,711
売上高経常利益率	17.59	15.48	12.31	14.29	15.61
当期利益	19,411	16,368	13,773	19,895	25,153
売上高当期利益率	11.47	9.75	8.09	9.39	10.7

前期と比較して改善したものの青字、悪化したものの赤字

売上高経常利益率は 2006 年 12 月期が最も悪くて 12.31% です。直近では 15.61% と 2 年の間に 3% 以上改善させました。

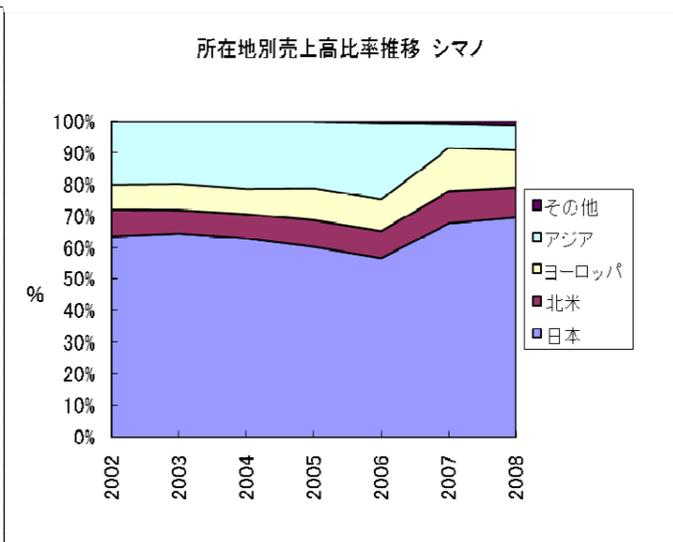
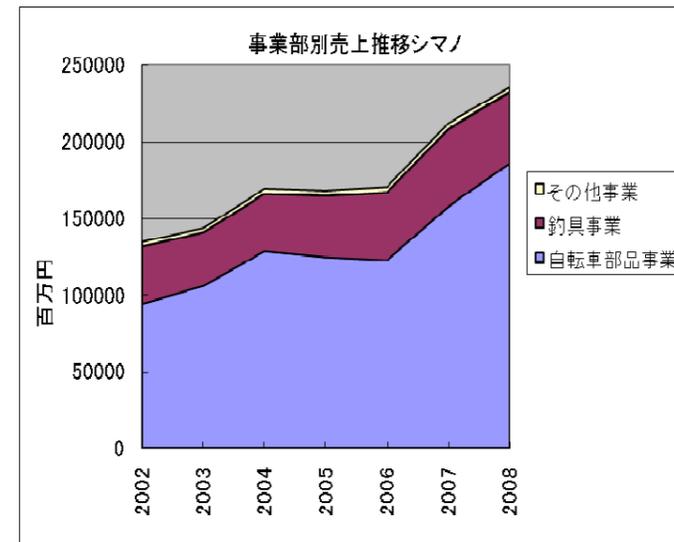
今回の恐慌下で強い企業にはある条件があります。キーワードは「リスクヘッジ」です。

トヨタに対し、2 輪を持っている本田技研工業が強いのもその一つです。

シマノは釣り具（水の上）と自転車（地の上）で「リスクヘッジ」しています。

販売先もアフリカは少ないかも知れませんが、ほぼ全世界各地域で「リスクヘッジ」しています。

商品での「リスクヘッジ」、地域での「リスクヘッジ」をかけています。



シマノにはもう一つ特徴があります。右図は過去 10 年間の株価のグラフです。ほぼ一貫して値を上げています。

業積がずーっと良かったとも言えますが、株式の消却をコツコツしていることも見逃せません。自己株式を買い、消却して、発行済株式を減らしていますから、1 株あたり価値はどんどん良くなります。



株価を見てみると、リーマンショックで 5 年ほど前の水準になっていますね。

ただし、必ず儲かるとは保証できませんから、自己の責任で意思決定してください。

